

# 4

火災・救急編

# 火災への備え

## 🔥 火災発生時の行動3原則!

### 火災が発生したら

#### 1 早く知らせる

- ①大きな声で「火事だー!」と叫び、隣近所に知らせる。  
声が出ないときは、非常ベルを鳴らすか、なべなどの音が出るものをたたいて知らせる。
- ②どんなに小さな火事でも必ず「119番通報」をする。



## 119番通報の流れ



## 2 早く消す

- ①火が横に広がっているうちは、消火が可能。ただし、炎が天井に届いたときは避難する。
- ②消火器や水だけでなく、毛布など手近なものを利用する。



### 火元によって消火方法が異なる

#### コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から鍋の全面を覆うように向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルを濡らして手前からかぶせ、コンロの火を消す。

#### ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などを濡らして手前からすべらせるように覆いかぶせ、空気を遮断する。

#### 衣類

- 着衣に火がついたら、あわてず走らず床に転げまわって火を消す。風呂場に残り湯があれば、浴槽に飛び込む。

#### 電気器具

- いきなり水をかけると感電の危険がある。コンセントかブレーカーを切り、消火器で消火する。

## カーテン・ ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。レールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後水をかけてしっかりと消火する。

## たばこ

- 寝たばこなどにより布団などの綿製品が焦げた場合は、消したつもりでも見えないところに火種が残り、再び燃え出すことがあるので完全に消火する。

### 3 早く逃げる

- ①天井まで火が燃え広がったら消火は困難。無理せず早く避難する。
- ②子どもやお年寄りを優先して避難させる。
- ③可能ならば、燃えている部屋の窓やドアを閉め空気を遮断してから避難する。

